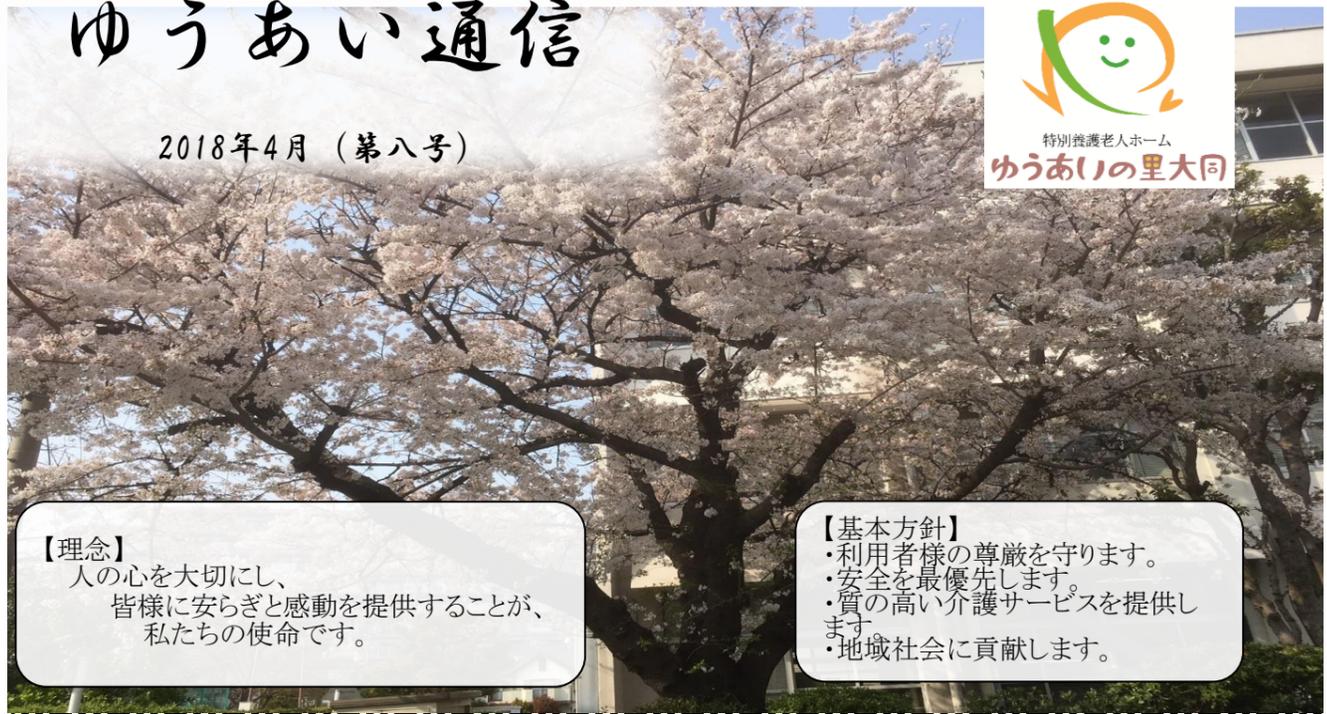


ゆうあい通信

2018年4月 (第八号)



【理念】

人の心を大切にし、
皆様に安らぎと感動を提供することが、
私たちの使命です。

【基本方針】

- ・利用者様の尊厳を守ります。
- ・安全を最優先します。
- ・質の高い介護サービスを提供します。
- ・地域社会に貢献します。

新年度のご挨拶

平成30年度を迎え、一言ご挨拶申し上げます。
初めに、日頃より入居の皆様やご家族様そして地域の皆様より、暖かいご支援やご理解を賜り厚く御礼申し上げます。
当施設の理念に「人の心を大切に」という言葉があります。これは、利用者様、ご家族様、地域の皆様、そして職員、全ての人がお互い相手の立場になって物事を考え、行動する事が何よりも大切だとの思いで掲げてあります。近年、高齢者施設内での痛ましい事件が報道され、私達職員は憤りや悲しい気持ちで一杯になりますが、皆様の中には不安に思われる方も多いと思います。職員一同、施設の理念を常に念頭に置き、「ゆうあいの里に来てよかった」と思って頂けるように、一人一人が能力の向上に努め、そして全体の質の向上を目指し努力していきたいと思っております。
最後に「地域の皆様のためのゆうあいの里大同」として、介護の相談からサービスの提供まで迅速に対応致します。何時でもお気軽にお立ち寄りいただければ嬉しく思います。

業務執行理事 入江 京子

介護報酬の改定がありました。

2018年4月に、介護報酬と診療報酬が同時に改定されました。

今回の介護報酬改定は+0.54%の改定で、特に特養経営には配慮がなされた内容です。前回の改定-2.27%により約30%の施設が赤字運営を余儀なくされており、その対策ともいえます。

この改定により、介護サービスを利用した際の利用料が上がります。改定内容や新設された加算等については、5月に郵送する4月分のサービス利用料請求書に同封する予定です。

そして、私たち施設側に要求されている内容には次のようなものがあります。

1. 適切な医療・介護サービスを切れ目なく受けられる体制の一翼を担うこと
2. 安心・安全で、自立支援・重度化防止に資する質の高い介護サービスを実現すること

これらは施設単独ではできない内容であり、地域全体の問題です。医療機関との連携を密にして、最善の努力をしていきます。



4~6月の行事等のご案内

写真は、昨年度の風景です。

皆様に喜んでいただけるイベント・行事を行います。

- 4月 お花見、松花堂弁当
遠足、感謝の会
- 5月 母の日、かつお料理
しょうぶ湯
- 6月 父の日、涼風料理
輪投げ大会



今年の桜の満開は例年より早かったです。3月末から、大同大学周辺の桜を観に行きます。



遠足では名古屋港水族館などへ行きます。



名古屋市の輪投げ大会に参加します。

大同大学生の介護実習



大同大学からの依頼を受け、32名の学生が当施設で「職場体験」を行いました。大学生のうちから社会人としての仕事の現状や厳しさを体験する事が目的との事でした。初日に、職場での身なりや言葉使い、守秘義務などを指導した上で、実際に利用者の体を起こしたり、車椅子を押したり、食事、入浴、トイレの介助など、日常生活全般のお世話を職員と一緒に行いました。

学生からは「介護は大変な仕事だけどやりがいがあると聞いた。」「自分の行った事に対し感謝してもらえ嬉しかった。」等の感想が聞かれました。

皆一生懸命に利用者には話しかけ、優しく関わっており、入居者もご自分の孫くらいの学生から介護を受け嬉しそうにされていたのも印象的でした。

施設開放

「はつらつクラブ」は社会福祉協議会が主となり、名古屋市南区の高齢者の老化防止や認知症予防を目指したサークルです。

当法人はその活動の場を提供しており、毎月第1・第3月曜日に施設に来られ、DVDを流して体操を行ったり、おしゃべりをし笑う事により脳の活性化を図ったり、様々な予防活動を行っております。

体操では当施設の入居者も参加し、施設内に楽しい雰囲気が漂っております。



編集後記

厳しい寒さの冬が過ぎ、暖かくて過ごしやすい季節がやってきました。気付けば日もだいぶ長くなり、冬の間は暗くなっていた時間でも、今は随分明るくなりました。暗い中歩いていた帰り道が明るいだけで、心も足取りも軽くなります。

「ゆうあい通信」も今回で第8号となりました。今年度も、「ゆうあいの里」の情報を皆様に発信し、少しでも多くの方に楽しんで読んでもらえるような季刊誌になるよう努めていきます。また、今この「ゆうあい通信」を読んでいる方々に、次の発行が楽しみと思ってもらえるような季刊誌になっていけるよう頑張りますので、今年度も「ゆうあい通信」をよろしくお願ひします。

職員コラム

2月の終わり、我が家で「おこしもの」作りを行いました。「おこしもの」とは、毎年雛祭りの時期に作るお餅のような食べ物です。米粉をお湯で固めて、何も色を付けない生地と、赤、緑、黄色の三種類の色粉で色を付けた生地を作ります。色生地を木で作られた型に散らして、その上から無色の生地を型に合わせて広げます。

私が子どもの頃から、この時期になると毎年家族総出で半日かかって作っていました。最後の方には疲れて嫌になっているのですが、それでも翌年この時期が近付くと、「おこしもの」作りを楽しみにしている自分がいます。

作った「おこしもの」は毎日朝食として食べて、1か月もしないうちに食べ終わってしまいました。家族もそれぞれ忙しくなってきた、いつまで続けられるか分かりませんが、できるだけ長く続けたいと思います。



ゆうあい通信 2018年4月(第八号)

編集・発行 社会福祉法人 大同福祉会 特別養護老人ホームゆうあいの里大同

〒457-8512 名古屋市南区白水町20番地 TEL052-612-3030(代表) FAX052-612-3076

介護の目標(心のこもった声かけ)

当施設の基本方針にもあるように、「質の高い介護サービス」の提供を行い、入居者の皆様に安心して生活して頂くことが、私たちの使命です。

質の高い介護サービスの提供には、介護の知識や技術を深める事は勿論重要ですが、入居者を尊重した声かけや態度も同じように、あるいは一番重要なことかもしれません。今年度は、介護サービスを提供する場面の一つひとつで、「心のこもった声かけ」を意識し、実践していきます。

日常のちょっとした場面、例えば入浴や着替えの介助時、車椅子での移動時などに、入居者の方と何気ない会話をするとといった些細なことが、より良い関係を築いていく上では大切なことです。

何気ない会話や短い会話であっても、心がこもっていれば、相手に伝わると思います。逆に表面上の言葉であれば、それもまた相手には伝わってしまうと思います。

私達は、介護士のあるべき姿として、自己の声かけや態度を常に振り返りながら、「心のこもった声かけ」で、入居者一人ひとりの心に寄り添った介護を目指します。

入居者及びご家族に信頼して頂ける、ゆうあいの里大同の介護士であるよう、今年度も精一杯頑張ります。



看護の目標(肺炎予防、褥瘡予防)

高齢者は抵抗力が低下し様々な感染を起こしやすい状態にあります。その中で最も多いのは肺炎です。肺炎には、「①感染症によるもの」「②食物等の誤嚥によるもの」があり、①に対しては、施設内での感染防止や肺炎球菌ワクチンの予防接種をすすめています。

②に対しては、入居者の咀嚼や嚥下機能を考慮し、食事の形態や食分量、食器やスプーンなどの工夫を行い、個々に合わせた食事介助に努めています。

又、高齢者は皮膚が乾燥し脆弱となり様々なトラブルを起こしやすくなります。褥瘡もその一つで、

当施設では全ての入居者に対し褥瘡のリスクを判定し、ハイリスクと判定された方には「褥創予防計画書」を作成し、個々に応じた予防策をとっております。それでも発生した場合は、すぐに原因を突き止め、対策を立てて早期の治癒に努めております。

平成30年度も看護師を中心に全職員で協力し合い、「肺炎予防と褥創予防」に全力で取り組んでいきます。



相談員の目標

入居者に快適な生活を送って頂けるよう、私達相談員は一人ひとりの施設での日常を把握し、ご家族からのご要望をお聞きし、より良いサービスを提供出来る様に計画を立て、職員全員で実行しています。

今年度は、更に内容を充実していけるよう、今まで以上に入居者一人ひとりの些細な情報もしっかり把握できるよう努めると共に、ご家族との連絡・連携も深めていきたいと思っております。

また、社会福祉施設の相談員は、地域の住民と施設をつなぐという重要な役割もあります。地域全体のニーズを把握しつつ、個々人が困っている具体的な事柄について相談に乗りアドバイスさせて頂く事も大

切な業務の一つです。高齢化が進み、今は元気でも将来に不安のある方は多いと思っております。

今年度は、今まで以上に地域の人々が気軽に足を運んで頂ける開放的施設、そして何でも相談できる身近な相談員を目指し頑張りたいと思っております。



生活環境をより快適に・・・!

新年度からは、館内で流れているBGMの一部見直しをし、クラシックの時間と懐かしい童謡を流す時間を設けました。認知症を患い、5分前の事を忘れてしまう方でも、幼いころに覚えた歌は忘れずに覚えていきます。曲が流れると自然に口ずさみ、隣の方と一緒に合唱することもあります。施設行事やクラブ活動の中には、手先を使う活動もありますが、歌を聴くことは手足が不自由な方でも楽しむことができますし、ベッドで過ごす時間が多くなった方にとっては、BGMが癒しになればと考えています。懐かしい歌を聴くと、その時の自分が蘇り気持ちも若返ります。

また、食事の時間にはテレビを消し、館内BGMのみを流します。目の前の食事に集中して、美味しい食事の時間を楽しんでいただきます。また、終末期では、人間の五感の中で最期まで機能しているのは聴覚といわれています。視覚や味覚が衰えても、家族の声や懐かしい歌を聴いて最期まで穏やかに過ごしていただきたいと思います。



1月～3月の行事風景

様々なイベントを開催いたしました。

1月 お抹茶会
初詣
鏡開き
歌謡ショー
「感謝の会」



1月18日歌謡ショーイベント「感謝の会」
昔の歌と一緒に唄って盛りあがりました。



正月では近くの白水神社に初詣に行きました。皆さんそれぞれ今年の抱負を絵馬に書いておられました。鏡開きでは花餅を飾り正月ならではのイベントがたくさんありました。

2月 節分会
お料理クラブ
「ホットケーキ」



2月3日節分イベント
職員が鬼に扮し、豆まきを行いました。



3月 雛祭り
ブリ解体ショー
だいでうオーケストラ



3月14日ブリ解体ショーでは大きなブリの解体刺身にして召し上がって頂きました。



雛祭り飾り



3月17日だいでうオーケストラ

インフルエンザ発症「ゼロ」を目指した結果



昨年11月より「インフルエンザ発生ゼロを目指して」様々な対策を実施してきました。そのおかげで、世間ではインフルエンザが猛威を振るっている中、当施設ではインフルエンザ発症者を2名に抑えることができました。

1名は、施設医の指示のもと発熱と共に速やかに個室隔離し治療を行い軽快されました。また、もう1名は、発熱の数日前から食欲低下もあった為、ご家族と相談のうえ病院を受診し入院となりましたが、約2週間後には元気に退院されました。

2人とも2階の利用者であった為、各階の移動を最小限にとどめ、感染の拡大を防止しました。その

他にも、入居者全員の1日3回の検温を行った事、職員全員が手洗い・手指消毒を徹底した事、加湿器を増設し湿度管理を行った事等で、感染の拡大を防止しました。

インフルエンザ発症の時期であっても、全ての面会を禁止するのは困難なため、体調の悪い方やお子さんの面会は控えて頂くと共に、面会時には必ずマスクを着用するようご協力頂いた事も、予防対策の一つとして効果があったと思っております。

ご家族様のご協力により、インフルエンザの発症を最小限に留めることが出来ました。深く感謝申し上げます。